

家計調査報告〔家計収支編〕

家計消費傾向と品目別支出金額
調査報告書

2019年10月

東松島市商工会

家計調査（総務省統計局）の調査方法について

家計調査は、都市別、地域別、収入階級別、そのほか世帯の特性による集計結果によって、家計収支の実態を毎月明らかにし、国の政策の基礎資料としています。

対象は学生の単身世帯を除く全世帯です。ただし、飲食店や旅館などを営む併用住宅の世帯、賄い付の同居人がいる世帯、外国人世帯などを除きます。調査対象の選定にあたっては、特定の地域や地理的な特性などが偏らないように、層化3段抽出法という方法を使い、全国の約8000世帯を対象に調査を実施しています。

目次

2018年 家計調査報告〔家計収支編〕より

1. 1世帯当たり1か月平均の消費支出.....	1
2. 二人以上の世帯の10大費目別消費支出と内訳.....	2
3. 勤労者世帯の1世帯当たりの1か月平均の実収入.....	2
4. 二人以上の世帯のうち勤労者世帯の家計収支.....	3
5. 世帯主の年齢階級別家計収支（二人以上の世帯のうち高齢無職世帯）.....	3
6. 世帯主の年齢階級別支出.....	4
7. 5万人以下の小都市・町村の1世帯当たり年間品目別支出金額.....	5

2018年 家計調査報告〔家計収支編〕より

1. 1世帯当たり1か月平均の消費支出

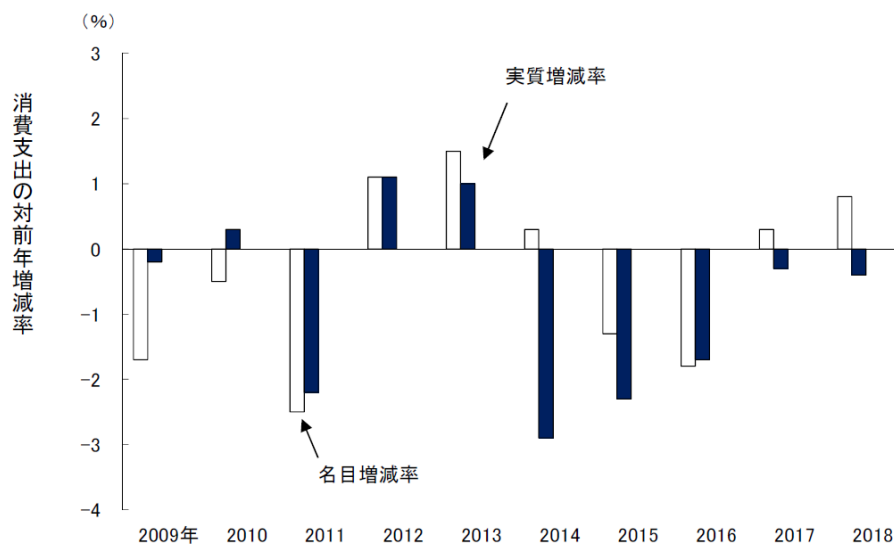
消費支出の近年の状況として、2014年は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要がみられたものの、その後の反動減や夏場の天候不順の影響などもあって減少(-2.9%)となった。2015年以降も減少が続いており、2018年(-0.4%)は、2014年以降5年連続の実質減少となった。

2018年の総世帯 (平均世帯人員 2.33人、世帯主の平均年齢 59.3歳)

2018年の二人以上の世帯 (平均世帯人員 2.98人、世帯主の平均年齢 59.3歳)

総世帯は、	246,399円
前年比	名目0.2%の増加 実質1.0%の減少
二人以上の世帯は、	287,315円
前年比	名目0.8%の増加 実質0.4%の減少

○消費支出の対前年実質増減率の推移(二人以上の世帯)



消費支出	2009年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
月平均額(円)	291,737	290,244	282,966	286,169	290,454	291,194	287,373	282,188	283,027	287,315
名目増減率(%)	-1.7	-0.5	-2.5	1.1	1.5	0.3	-1.3	-1.8	0.3	0.8
実質増減率(%)	-0.2	0.3	-2.2	1.1	1.0	-2.9	-2.3	-1.7	-0.3	-0.4

(注) 1 2018年の名目増減率及び実質増減率は、変動調整値である。
 2 増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

2. 二人以上の世帯の10大費目別消費支出と内訳

消費支出を10大費目別にみると、「その他の消費支出」、「食料」、「教養娯楽」、「光熱・水道」及び「被服及び履物」の5費目が実質減少となった。一方、「交通・通信」、「教育」、「家具・家事用品」、「住居」及び「保健医療」の5費目が実質増加となった。

○二人以上の世帯の10大費目別1世帯当たり1か月間の支出

項目	月平均額 (円)	対前年増減率(%)		実質増減率への 寄与度(%)	構成比 (%)
		名目	実質		
消費支出	287,315	0.8	-0.4	-0.40	100
食料	79,348	-0.1	-1.5	-0.41	28
住居	16,920	1.4	1.3	0.08	6
光熱・水道	22,020	1.6	-2.3	-0.18	8
家具・家事用品	11,094	1.7	2.8	0.11	4
被服及び履物	11,384	-1.5	-1.6	-0.06	4
保健医療	13,328	2.2	0.7	0.03	5
交通・通信	42,264	5.3	3.8	0.54	15
教育	11,788	5.8	5.4	0.21	4
教養娯楽	29,083	-1.6	-2.4	-0.25	10
その他の消費支出	50,087	-1.5	-2.7	-0.47	17

3. 勤労者世帯の1世帯当たりの1か月平均の実収入

二人以上の世帯において、実収入のうち勤め先収入の内訳をみると、世帯主の定期収入は名目減少、世帯主の臨時収入・賞与、世帯主の配偶者の収入及び他の世帯員収入は名目増加となった。

総世帯は、	492,594 円
前年比	名目 同水準 実質 1.2%の減少
二人以上の世帯は、	558,718 円
前年比	名目 0.6%の増加 実質 0.6%の減少

4. 二人以上の世帯のうち勤労者世帯の家計収支

- 1) 実収入は名目0.6%の増加、実質0.6%の減少
勤労者世帯（平均世帯人員3.32人、世帯主の平均年齢49.6歳）の実収入は、1世帯当たり1か月平均558,718円
- 2) 可処分所得は実質0.4%の減少
可処分所得（実収入から直接税、社会保険料などの非消費支出を差し引いた額）は455,125円。
- 3) 消費支出は実質1.5%の減少
消費支出は315,314円。2012年、2013年と2年連続で増加となったが、2014年以降は3年連続で減少となったが、2017年に増加に転じたものの、2018年は再び減少となった。
- 4) 平均消費性向（可処分所得に対する消費支出の割合）は2.8ポイントの低下
平均消費性向は69.3%となり、前年に比べ2.8ポイントの低下。
黒字は139,811円、黒字率は30.7%となった。

* 黒字とは、可処分所得から消費支出を差し引いた額。黒字率とは、可処分所得に対する黒字の割合

5. 世帯主の年齢階級別家計収支（二人以上の世帯のうち高齢無職世帯）

消費支出をみると60～64歳の世帯で272,713円と最も高く、年齢階級が上がるにつれて低くなっている。60歳以上の階級ではいずれも消費支出が可処分所得を上回っている。

○世帯主の年齢階級別家計収支（二人以上の世帯のうち高齢無職世帯）

表1 二人以上の世帯のうち高齢無職世帯の家計収支 -2018年-

項目	平均	(円)			
		60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
世帯数分布(1万分比)	10,000	600	2,094	2,477	4,829
世帯人員(人)	2.38	2.59	2.48	2.36	2.33
世帯主の年齢(歳)	74.4	62.5	67.2	71.9	80.2
持家率(%)	93.3	95.0	93.4	93.4	92.9
実収入	222,335	195,044	238,063	223,371	218,026
社会保険給付	188,195	112,580	190,067	194,134	193,470
非消費支出	29,856	37,875	34,050	30,889	26,461
可処分所得	192,479	157,169	204,013	192,482	191,566
消費支出	239,934	272,713	262,122	252,654	219,742
黒字	-47,455	-115,544	-58,109	-60,172	-28,176
平均消費性向(%)	124.7	173.5	128.5	131.3	114.7
(参考値)平均消費性向(%) (注2)	(133.5)	(185.8)	(137.6)	(140.6)	(122.9)
黒字率(%)	-24.7	-73.5	-28.5	-31.3	-14.7
(参考値)黒字率(%) (注2)	(-33.5)	(-85.8)	(-37.6)	(-40.6)	(-22.9)

(注) 1 高齢無職世帯とは、世帯主が60歳以上の無職世帯である。
2 ()内は、家計簿の改正による影響を調整した参考値である。

6. 世帯主の年齢階級別支出

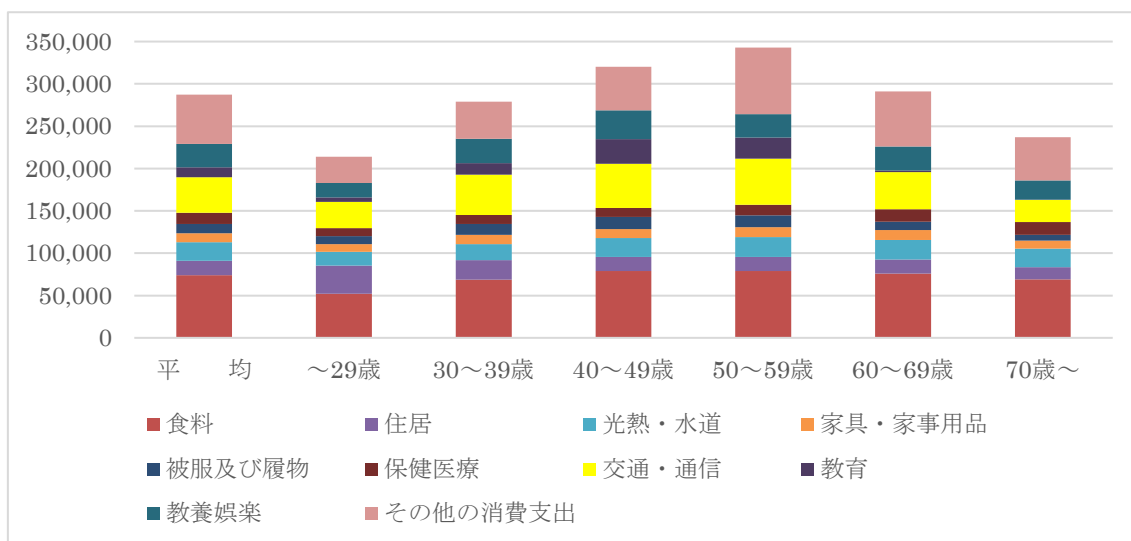
◇消費支出は60～69歳を除く各階級で実質減少

二人以上の世帯の消費支出を世帯主の年齢階級別にみると、40歳未満の世帯は1世帯当たり1か月平均270,560円、40～49歳の世帯は320,125円、50～59歳の世帯は342,757円、60～69歳の世帯は291,019円、70歳以上の世帯は237,034円となった。

前年と比べると、50～59歳の世帯で実質2.2%の減少、60～69歳の世帯で実質1.6%の減少、70歳以上の世帯で実質0.9%の減少、40～49歳の世帯で実質0.3%の減少となった。一方、40歳未満の世帯で実質3.7%の増加となった。

○世帯主の年齢階級別消費支出

項目	平均	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～
消費支出	287,315	213,895	278,864	320,125	342,757	291,019	237,034
食料	73,977	52,177	68,630	79,073	78,809	76,003	69,234
住居	16,915	33,349	23,121	16,666	16,825	16,679	14,347
光熱・水道	22,019	15,950	18,913	22,115	23,336	22,831	21,882
家具・家事用品	10,839	9,394	10,908	10,626	11,828	11,966	9,582
被服及び履物	10,791	9,441	13,120	14,324	13,809	9,868	6,745
保健医療	13,227	9,177	10,593	10,764	12,603	14,659	15,135
交通・通信	42,107	31,255	47,536	52,048	54,433	43,674	25,919
教育	11,785	5,256	13,523	29,121	24,825	1,866	482
教養娯楽	27,581	16,824	28,743	34,053	27,870	28,479	22,794
その他の消費支出	58,074	31,074	43,776	51,334	78,419	64,994	50,913



7. 5万人以下の小都市・町村の1世帯当たり年間品目別支出金額（二人以上の世帯）

都市階級別の品目支出金額より、下記表の通り独自に抽出。品目ごとに金額の浮き沈みはあるものの、消費支出総額ではここ数年増加となっている。

○5万人以下の小都市・町村の1世帯当たり年間品目別支出額一覧

品目	支出金額	品目	支出金額	品目	支出金額
干しのみ	2,466	日本そば・うどん	5,281	温泉・銭湯入浴料	1,603
しょう油	2,027	中華そば	6,338	理髪料	5,816
みそ	2,331	すし(外食)	14,834	パーマメント代	3,064
まんじゅう	1,285	和食	17,092	カット代	5,908
他の和生菓子	7,945	中華食	3,565	他の理美容代	14,752
ケーキ	6,265	洋食	8,832	化粧クリーム	4,894
ゼリー	1,957	焼肉	7,472	化粧水	4,113
プリン	1,371	喫茶代	4,012	乳液	1,917
他の洋生菓子	6,720	設備修繕・維持	98,596	ファンデーション	2,954
清酒	6,234	畳替え	1,565	祭具・墓石	2,265
焼酎	8,630	整骨(接骨)・鍼灸	1,788	医療保険料	19,472
ビール	12,343	マッサージ料金	2,327	非貯蓄型保険料	75,157
ウイスキー	1,565	自動車整備費	27,396	自動車保険(自賠責)	11,583
ワイン	1,831	切り花	8,912	自動車保険(任意)	50,289
発泡酒等	9,387	宿泊料	16,733	他の家事雑貨	14,529

◇商圏市場規模の目安

上記表は、5万人以下の市町村に住む1世帯（二人以上の世帯）当たり年間平均支出金額であり、おおよその世帯を乗ずることで商圏における目安の市場規模が算出することができる。

東松島市（令和元年5月1日現在）は、人口39,953人、世帯数15,966世帯である。